小兒の發熱は如何に處置す可きか

瀬川昌耆

私の專門は小兒科であるから話と云へば矢張り小供の病氣に就てゞあるが、一般の育兒法と云ふ樣なものは從來種々の新聞や雜誌にも出て居るし又自分の嘗て話したものを本誌上にも永く載せた事もあるから今日は一般健康兒の事でなく病兒の取り扱ひの事で少し述べて見ませう。

先づ健康と云ひ不健康と云ふのは何う云ふことかと云ふに此區別は一寸わからぬものです、一体に絶体的の健康と云ふものは殆んどない所のもので何んな健康强壯のものでも之を細かに調査すると云ふと何處かに必ず缺點を有するものです。即ち絶体に無病息災な人と云ふものは先づないと云ふてよい位のものです。故に健康体と病体との區別は一寸極め兼ねますが、まあ大体に就て云へば生活活動に不都合がなければ健康と云ふて差支ないのであります。之と同樣で小兒の弱い弱くないと云ふことも程度がつき兼ねるものです。夫れに又小兒と大人とは元來、身体の組織及生理、狀態が違ふので、其病氣の樣子も色々違つて來ます。之が小兒科專門の起る所ですが大に注意を要する次第です。

そこで本論に入つて病氣の事を話しますが、病氣には昔から四百四病あると云ふ位に多くありますが、今日では段々と殖えて中々四百四病どこではありません。それで是等の病氣を直るか直らぬかと云ふことに因つて分けて見ますと大凡そ四つになります。第一は醫療を加へずして直るものです、凡そ病氣と云ふものは何の病氣でも決して醫者が全然直すのではなくて病は獨りでに直つて來るものです。殊に藥など云ふものは元來が單に病患の叩進を妨げて体を保護するに過ぎないもので

ありますが、其中でも此第一種に屬する病には藥は何の役にも立たないもので、云はゞ無用の長物です。假令飲んだ處で早く直るでもなし、遲く掛るでもありません。こんなものに藥代を拂つたり診察料を取られるは馬鹿げた事です。尤も斯ふ云ふ馬鹿げた金の遣ひ方をする人があるので、醫者も飯が食へるので若し世人が皆注して此種の病氣は一切醫者の所へ持つて行かない、醫者の世話には一切ならないなどゝなると、醫者も飯の食ひ上げと云ふ譯になりますが、そこは天が甘く配劑して是等のつまらない病氣にも金を投ずる人が續々絶ゆることのない樣にしてあります、何う云ふのかと云ふと、素人には是は治療を加へなければならない病氣か、若しくは投藥の必要のない病氣かゞ分らないのです、是が別つたら最期醫者は飯の食上げです。

第二種は醫療を加ふる時は治癒の日數を早めることの出來るものです、そして放つて置く時は普に全治の期を遲くするばかりでなく時には不治のものに導かぬとも限らぬものです、併し多くは自然に平癒するものです。

第三種は治療を要するもので若し醫藥の手を藉りなかつたなら必ず不治の狀態に陷らしむるもので治療すれば全治することの出來るものです。

第四種は到底不治の病で現今の醫學の程度では治療の方法が判らぬものです。それで右の第一種に屬するものは輕さ食傷輕さ風邪などで是等は別段醫術を要さぬもので、自然に治癒するものです。

多くの病の中には此程度に屬するものが頗る多くて私が常に診察して居る女子高等師範の寄宿生などの平素の病氣は大抵此種のもので別段投藥の必要はないものです。併し診察した丈で藥を遣らぬと如何にも不親切の樣ですから投藥はしますが、實は何等の効もない位のものです、それだから私は自分の家族などには滅多に投藥したことがありません。次に第二種第三種と云ふのは普通の病氣

は悉く入るので肺病の初期なども此中です、即ち肺病なども凡て初期ならば治るものですが治療を加へないと迚も治らぬのみか遂には死を招ぐ樣になるものです、次に第四種に屬すると云ふのは諸種の崑瘧肺結核の末期、などの類です。

斯の如く病氣には治るものゝ治らぬものとあり治るものゝ中でも醫藥を要せぬものと要するものとがあります。併し此治療を要さぬものでも攝生と云ふことは怠ることは出來ませぬ、病氣は假令治療を要さぬ程輕いものでも、若し攝生に欠ける處があれば病勢を導いて遂に大患にしてしまふことがあるものです。例へば食傷の氣味の處へ不消化物を食べたり感冒の氣味の所を寒風に吹かれたりしたらば其結果は必ず惡いに極まつて居ます。即ち攝生は病氣には殊更大切なものであり特に小兒などには其取扱方が特別ですから大に研究しなければなりません。

そこで病氣の時の取り扱ひ方は何うしたらよいかと云ふに先づ最も多く困るのは小兒發熱の場合です。一体人体の熱度は三十七度前後で小兒は大人に比べると一般に少し高いものです、それが病氣となると著るしく高くなつたり底くなつたりします。平日の溫度よりも二三部位高かつたり時には六七部位低かつたりする位なら別段病氣と云ふ程ではないのですが是以上も著るしく變化が來たら病体と思はなければなりません。尤も熱は之を計る位置が異るに因つて違ひますが以上は專ら腋下で計るのを云ふたのです。

小兒の發熱する原因は不明なるをが屢あります。そして小兒は熱に感じ易いもので時には檢溫器に顯れない程の微熱にも感じて居ることがあります俗間には之等を智惠熱とか齒熱とか云ふて居ますが確かでありません。齒熱なども或ものは信じて居ますが私は信じません。齒の生へる前と中と後とに區別して詳細に調査して見ると何うも確かな事實を見出すことが出來ません。故に是等の時の

發熱は其原因が不明なるとが度々あります。併し此熱量は治療の上には大切なものですから能く計つて於て醫士に報じなければなりません。其計り方は腋下でするが普通ですが、計り惡ければ肛門でも宜しい此方は時間が少くて計れます。獨乙などでは專ら肛門で計ります。斯樣にして熱の高いことを見出しましたらば先づ子供を涼しい處へ寢かして頭を冷やすことです。之は腦膜炎を起すのを豫防する計りでなく、熱の下降を來すことがあります。若し頭を冷すことを小兒が嫌つて仕方のない時は枕に水と氷を入れて冷　が宜しい。時には熱があつて四肢の刼つて冷ゆることがあります。此時には適宜温めて遣るが宜しい。頭を冷して居る中に漸次熱が下降したらば止めて宜しい頻のあたりが冷えて來た時は止めてよい時です。

又發熱の原因が腸にあることがあります、斯るときは多く便秘などして居るものですが若し便秘して居つたらば灌腸して遣るが宜しい其方法も器も簡單ですから家庭には必要のものです、近頃グリスリン座藥と云ふものがありますが之も可なりには効ますが灌腸器程には効がありません。

小兒發熱の場合は大略右の樣にして置いてそれから後の手當は醫士を俟つのが得策です。其以外妄りにいぢると飛んでもないことにすることがありますから先づ手を付けないのが安全です。

▲英國と女教師の增加　米國にては教師の代名詞として彼女を用ふる程にて大抵の小學教師は多く婦人なるが英國にても近來女教師の數著しく增加し千八百五十年には小學教師四名の中三名は男子なりしもの今は反對に四名の中三名は女子の割合となり女教師の數は總て二万人以上となりたる由なり

▲歐洲女子の理想生活　歐洲諸國の女子にして廿五歲以下の年齡に於て結婚するものは近來極めて多く自身は父母の家に住みて婚約を爲したる人より絕えず種々の遊興に金錢を費さしむるは最と愉快　る理想生活なりと稱し居ると云ふ斯くも一身の安逸のみを圖るに至りては歐洲人の前途も憐れなりと謂ふべし